

時間割コード	G2B55724	開講年度	2026				
授業題目	データからの地域課題発見ゼミ					担当教員	鈴木 治郎
英文授業名	Looking at Regional Data and Developing Own Thought						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・3時限	対象学生	全
講義室	共通教育 5 4 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	
						備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	大学D P						
	的確に情報を収集し，理解し，発信する力					⇔	地域オープンデータの処理を通じてデータの特徴を適切に読み取り，適正に表現できるようになる
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、健康長寿						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	地方創生に貢献するオープンデータ活用システムであるRESAS（地域経済分析システム）は2005年に運用開始されました。RESASでは地域（都道府県別あるいは市町村別）のもつ数値情報を各種グラフや地図表示を通じた，さまざまな比較が可能です。そこで大きく以下のステップにより，一人で，あるいはグループでの地域データの図示を通じた分析を繰り返しながら，受講者間で発見した特徴に関する意見交換を繰り返します。 1. RESASおよびe-statを通じてさまざまな地域の特徴を発見し，受講者間で意見交換を進めます。ただし，これらのシステム利用だけでは，あらかじめ用意されたメニュー上の出来合いのグラフしか得られません。 2. オンラインでのデータ分析環境であるLooker Studio（Googleの提供するサービス，2022年まではGoogle Data Portalと呼ばれた）を通じて，RESASやe-statなどから入手したデータを，私たちの手で分析し図示します。図示においては，データのもつ特徴を適切に表現することに留意し，多くの課題で練習を繰り返します。 3. グループで特定のテーマに対して意見交換を進めながら地域の抱える問題をグラフ化を通じて発見し，何回か発表をします。問題発見のためのデータや知見の探索には，近年発展の著しい生成AIの活用も進めます。						
(5)授業のキーワード	地域課題発見，情報の視覚化，オープンデータ，グループワーク						
(6)授業計画	1. ガイダンス（オンラインのeALPSに提供されている資料を参考にしてください。教室参加の必要はありません） 2. RESASおよびe-statを通じた地域課題の発見 3. Looker Studioを通じた地域課題の発見 4ー6. 地域創生アイデアコンテストを通じたグラフ作成演習 7--9. グループでの地域課題の検討 10. グループでの地域課題の発表（第1回） 11ー13. グループでの地域課題の検討 14. グループでの地域課題の発表（第2回） 15. 振り返り（データを図示するとは何だろうか） ※1 5回目授業の最後の1 5分で授業アンケートを実施します						
(7)成績評価の方法	毎回の授業に対する課題として，主にフォーラム（掲示板の一種）を通じた数百文字程度のレポートをeALPS上で実施し，これにもとづき評価します。また授業に相応しい良い質問をすることに加点します。100点満点と考えるとき，個人レポート50点前後，グループレポート50点前後です。レポート評価には授業時間内の質疑応答も含みます。						
(8)成績評価の基準	レポートなどの多くで合格点をとれば「その水準にある」，課題のほとんどで合格点をとり，さらに課題の多くで上にある水準の得点をとれば「やや上にある」，課題のほとんどで上にある水準の得点をとれば「かなり上にある」，その上で，授業に相応しい良い質問を授業の最中にできれば「卓越している」。 期末試験は行いません。						
(9)事前事後学習の内容	毎回の授業においては，eALPS上に指示のある復習すべき内容をもとに掲示板等の課題が提供，そして実施されます。 各課題とも提出時間が決められています。課題に応じて授業時間内または翌週までの間が基本です。 ※この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って，60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	第1週授業で行うガイダンスの内容に関してはeALPS上に資料があります。教室ガイダンスで，この資料にない情報の提供は基本的にないので，質問がなければ数分で終了します。 受講希望者が多い場合，学部バランスを考慮して抽選により受講者を決定します。 授業中にオンライン利用の各種システムを通じた演習があります。スマートフォンでも利用可能ですが，大きな画面利用の端末の方が学習しやすいでしょう。 RやPythonによるダッシュボード作成で個人課題をこなしても構いません。ただし，これらのツール利用						

(10)履修上の注意	に対して授業時間内の指導はしません。
(11)質問,相談への対応	eALPS上の掲示板およびメール szkjiro@shinshu-u.ac.jp によります。研究室を尋ねる際もメールによる事前連絡で時間調整をお願いします。 eALPSの利用法についてはe-Learningセンターに相談してください。
(12)授業への出席	授業時間内でないと参加できない課題もあります。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	事情により受講できなかった授業回でもオンラインでの課題提出はできます。
【教科書】	指定しません
【参考書】	日経ビッグデータ編「RESASの教科書」, 日経BP社, 2016年(現在, 電子書籍版のみ販売中) 地理空間情報システム学会編「地理空間情報を活かす授業のためのGIS教材」古今書院, 2021年 近藤隼他「BIツール活用超入門Google Data Portalではじめるデータ集計・分析・可視化」秀和システム, 2021年 Wilke「データビジュアライゼーションの基礎」オライリー, 2022年 西田典充「Rでらくらくデータ分析入門」技術評論社, 2021年 大塚あみ「毎日連続100本アプリを作ったら人生が変わった」日経BP社, 2025年